

～軽井沢町の“今”を伝える情報誌～

# ボランティア情報

2015年  
12月

発行 軽井沢町ボランティアセンター  
〒389-0111 軽井沢町大字長倉 4844-1 木もれ陽の里  
電話 45-8113 FAX 46-2116

http://www.ktvc.jp Email karu-vc@eco.ocn.ne.jp

## ～ボランティアはありがたいけれど～ サービスとボランティアの境界線って？

このところ、軽井沢町近在でも「住民参加型有償在宅サービス」が地域住民の手で展開され始めています。軽井沢町でいえば「安心ほっと生活サポート」、御代田町では「ええっこ」が元気に活動しています。ところで、これはサービス、これはボランティアと言う「境界線」はどこにあるのでしょうか？

日本は昔からこんな言葉があります。「遠くの親戚より近くの他人」、つまり身近な知人や地縁血縁関係者の協力があって生活が成り立っていることを表現しています。特に農繁期の子育てや子供の預かりごとを各家庭持ち回りで行っていたのは有名な話。「結」とも言い、それが訛って「ゆいっこ」とか「ええっこ」と呼ばれる地域もあります。沖縄でもその精神は生きていて沖縄では「結」のことは「ゆいまーる」、漁村では「もやい」等とも呼ばれているのだそうです。

ここまでは、ある意味「無償」活動の域です。対価を求めず互いに力を出し合いながら生き抜くための「手段」。では、「有償」とは？

活動の対価を金銭に求める、求めた場合、それは立派な「サービス」です。サービスには様々な基準や規則も発生し、順守しないと罰則まで付いてきますが…当たり前と言えば当たり前。ボランティア活動も対価が発生するとサービスになるのですが、ここで間違えてはいけないのが、「労働の対価」です。そもそもボランティア活動は「労働」ではありません。ここに対価が発生させて社会に求められている諸課題を解決すべく法人化されるのがNPO（特定非営利活動法人）です。

※交通費や活動に際しての原材料費を対象者に協議のうえ求めることは違法ではありませんよ。

しかし、現代社会の福祉課題は多様化、複雑化しています。物事を「タテ」に見据えるだけに留まらず。「ヨコ」にも「ナナメ」にも常に視点を変えて活動に取り組む「コミュニティビジネス」「ソーシャルビジネス」が若い層を中心に発展してきています。SNS の力とネットの力であらゆる世代に情報を届けることのできる「ツール」を持ち得るこの活動にも注目が集まっています。

さて、“ボランティアはありがたいけれど…”と利用者さんからお聞きします。対価が発生した方が「気持ち良く」利用できる方もいれば、その逆ももちろんあります。どちらも正解で、どちらの立場にも理解を進めて依頼者や活動者双方が“winwin”になれるように調整することが必要なんですね～。それにはまずは良く話を「聴く」こと。それと、地域の資源（ひと・もの・こと・かね）を常に探し回ること。

「結」の精神から発生した地縁活動から、ボランティア・地域活動、コミュニティビジネスまで幅広く情報を取り持つことのできるボランティアセンターの機能に皆さんも注目してくださいね。

## まちづくりリーダー養成塾最終回です！

私たちの目指す町づくり。それは人と人がつながり支え合う地域社会づくりの推進にあります。関係機関の主要施策にもコミュニティの再生や充実から、町づくりの担い手を確保するという動きも活発化しています。

そこで、軽井沢町も一層の地域福祉推進と地域づくりの担い手となる潜在的活動者を掘り起し、新たな地域課題や豊かな社会生活を送るための一助とし、自らの発想や発見で自分たちの住む町をより輝かせることのできる人財を育成するために標記養成塾を開催しています。

最終回：平成27年12月18日（金） 午後1時～午後4時 中央公民館 第3会議室

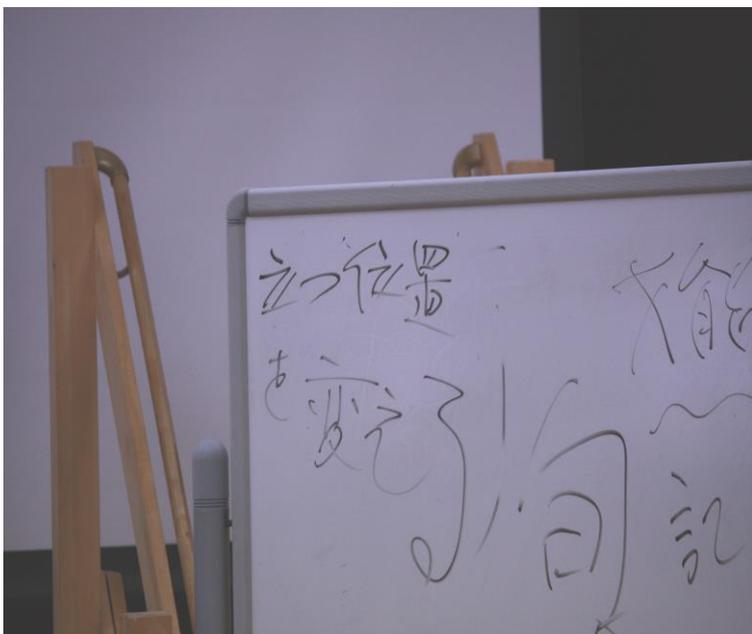
内容：シニア力向上講座（いよいよ受講者の皆さんが地域へデビューします！）

講師：フリージャーナリスト 内山二郎さん

## 一般公開講座！豊重哲郎さん講演会が開催されました

第5回目 11月27日（金） 「やねだん」から学ぼう！地域活動は感動の連鎖反応！

講師 地域活性化伝道師 豊重 哲郎さん



まずは、これ。  
（写真左）  
相手の立場に立つ  
ことから。  
「立つ位置を変え  
る」ことから相手へ  
の言葉がけが変わ  
る！小学生に向け  
て大人に話すよう  
な内容を伝えて  
いませんか？  
対象者に合わせて  
会話することもリ  
ーダーに求められる  
スキルですよ！  
と豊重さん。

- 「地域再生」リーダーへの一言提言
- 一、すぐれた人材は、社会の財産（人徳養成）
  - 一、3歩進んで2歩下がる（フォロー）
  - 一、慌てるな、急ぐな、近道をするな（土台づくり）
  - 一、リーダーはそれ相当の犠牲を払わなければならない（忍耐力・経済力）
  - 一、ヒーローにならなくていい、黒子でいい（天狗にならない）
  - 一、感動と感謝、目配り、気配り、心配り（情熱の人）

やねだんでは、集落内の情報（地区の年齢構成から子供や高齢者の人数等）を全て書き出して「分析」しているそうです。（写真右）

「地域に住む住民の名前を全て言えて初めて顔が見えるんだ」と豊重さん。そういう豊重さんはやねだんの約300名の住民の名前を全て覚えているそうです。

更に重ねて、「子どもの頃に体験した出来事が、大人になってからの糧になる。子ども達とどう向き合うか？これからの地域を育てることと子ども達を育てることはイコールだ！」と力説されました。

経営者の経験を元に、幅広い福祉の理念を得た豊重さん。これからも6次産業的な地域の自主ブランドを立ち上げ、財源を確保し更なるやねだんの「むらおこし」が進みます。鹿兒島でも、軽井沢でも思いを一つにして行動する「ひと」がいるんです！



…誰でも安心して活動するために…

### 《ボランティア活動保険に加入しましょう！》

\*補償期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

\*掛金 (補償金額により異なります)

Aタイプ 300円/Bタイプ 450円

\*手続き方法

・ボランティア団体

⇒『ボランティア活動保険加入申込書』(専用用紙)

『保険加入者名簿』(団体独自のものです)

以上2点の書類に掛金を添えてボランティアセンターまでお持ち下さい (ボランティア団体の場合は加入数15名分までを社協で負担します)。

・個人ボランティア

⇒ボランティア登録票を提出で、加入となります。

手続き及び掛金負担は社協で行います。

※3月31日で保険が切れますので加入希望の方は忘れず更新してください！

### 【イベント案内】

●第6回ちいき活動みほん市

1月31日(日)午後1時30分～ 軽井沢町中央公民館

軽井沢町内のボランティア・地域活動・NPO活動の体験会

●災害ボランティア活動フォーラム

2月14日(日) ※詳細は今後ホームページで公開

### 【ボランティア募集】

●託児ボランティア (活動の場が増えてきました!)

●車両運転ボランティア (詳細はお電話ください)

●犬のお散歩ボランティア ( " )

●地域の縁側「野あざみ」運営ボランティア ( " )

### ◆地域の縁側野あざみの活動紹介◆

12月9日、縁側野あざみでは地域住民向けのイベントを開催。ゲストは佐久総合病院地域ケア科が佐久市白田の商店街で実施している地域の保健室「はぐみ」の看護師さん2名。

町の保健室とは、病院という垣根を越えて、地域住民ともっと気軽に接し、生活や暮らしのサポートをしたいという佐久総合病院の理念から生まれました。

健康相談や暮らしの困りごと、高校生の恋愛相談や人間関係の相談まで…、様々な取り組みをされているとのこと。軽井沢町へは初出張！同じ取り組みをしているお仲間同士の情報共有と交流に向けお越しいただきました。

野あざみに訪れた高齢者の血圧測定や健康相談にも積極的に加わり、賑やかな2時間を過ごされたようです！

縁側野あざみデータ：毎週(水)10:00～15:00まで ※どなたでもどうぞ。  
利用料100円

地域の保健室はぐみデータ：毎月第1(火)・第3(木)9:30～16:00  
佐久市白田中央商店街 玉屋プラザ2階  
利用料無料・事前予約もありません！



話し始めると…もちろん止まりません!!



双方の情報交換が貴重でした！

## ◆おとなの部活 “ご当地〇〇部” ◆

今 facebook 上で話題になっているご当地〇〇部。いわゆる大人の部活動なんだそうです。軽井沢町ではまだ〇〇部があるとは聞いていませんが、安曇野では〇〇部が活動中だそうです。

次々に生まれるこうしたネット上のコミュニティーが注目を集めるのは、その気軽さとつながりやすさなのかもしれません。

そうしたコミュニティーが広がり、地縁血縁を超えた「志縁団体」になっていくんだなあ～と感じました。どなたか、軽井沢町でも作ってみませんか？軽井沢〇〇部！

### 《実験劇場 (CEP) のクリスマスパーティーに行ってきました！》

12月5日、くつかけテラスを会場に実験劇場 (creative English playground) 主催による Christmas party が開催されました。実験劇場とは英語を“普段着の言葉”にしていこうと活動するグループです。

当日は軽井沢高校と ISAK の生徒さん、フラダンスのグループ等関係者を含む約70名が参加。基本的には英語でのコミュニケーションですが、私は片言の英語としどろもどろの日本語で参加。一緒に参加した娘は学校で習った英語で自己紹介。「マイネームーズ…」

と恥ずかしそうに話している娘を横目に格好よく英語で会話する父親を見せようとしたのですが、理解できたのは初めの単語のいくつかだけ…。結局知り合いの ISAK の学生さんに娘を紹介しただけで撃沈してしまいました (笑)。

イベント中はネパールの大地震に関する情報提供や軽井沢高校の生徒さんと ISAK の生徒さん同士のゲーム等いろいろ楽しませてくださいました。

軽井沢町は外国籍の住民も多く住む町。国際親善文化観光都市としてどんな方も温かく迎え入れて差し上げることができる町。外国籍の方、障がいを持つ方、様々な理由で社会参加の機会に恵まれない方にも、しっかり視線を傾けることのできる人でありたいと感じた日でした。



代表の松田さんのご挨拶



みんな輪になって大交流！



手作りクッキーも頂きました！



託児ボラさんも大活躍!!